

オープン市場短信 (2013年11月)

2013.11.13

◆ 10月のCP市場動向

10月のCP（短期社債）月末残高は、9月末に残高を調整した鉄鋼等の復活発行があり、14兆1815億円と前月比8484億円の増加となったが、10月としては過去最低水準の発行残であった。一般事法は前月比+26.14%、その他金融は同+1.44%の増加であったが、金融機関発行分は同▲2.00%、ABC Pは同▲0.01%の減少となった。

4月以降、前年同月比が7ヶ月連続マイナスとなるなど、CP市場の規模縮小傾向は変わっていない。一般事法においては、電気機器や電力等の発行が伸びず、ABC Pは依然として発行ニーズ後退といった状況である。

発行レートは、ディーラー中心に引き続き購入意欲旺盛で、レートは横這いから弱含みとなっている。最上位銘柄では、1M物で0.08%近辺での出会い。一般事法でも、2~3M物で0.080%台半ば~0.090%台前半の出会いが中心となっていた。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）0.0815%~0.0990% 一般事業法人（a-1格）0.0860%~0.1050% その他金融銘柄（a-1格）0.0875%~0.1350%。

【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	10月末残高	9月末残高	増減
一般事法	40,103	31,793	8,310
その他金融	56,175	55,376	799
金融機関	30,046	30,656	▲ 610
（政府系金融	300	350	▲ 50）
（銀行等	14,221	14,447	▲ 226）
（証券	15,525	15,859	▲ 334）
ABC P	15,491	15,506	▲ 15
計	141,815	133,331	8,484

（注：買入消却分含む）

【格付け別の発行レート】

10月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヶ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.0790% ~ 0.0855%	—— ~ ——	0.0820% ~ 0.0990%
a-1 (一般事法)	0.0850% ~ 0.1020%	0.0840% ~ 0.1080%	0.0860% ~ 0.1050%
a-1+(リース銘柄)	0.0788% ~ 0.0810%	—— ~ ——	0.0815% ~ 0.0820%
a-1 (リース銘柄)	0.0870% ~ 0.1070%	0.0880% ~ 0.1100%	0.0875% ~ 0.1350%
a-2	0.1060% ~ ケ 0.30%	0.1040% ~ ケ 0.35%	0.1040% ~ ケ 0.40%

《CPオペ》

CP買入オペは、10月は3日・18日・28日と3回実行された。3日のオペでは、応札玉は増加したものの、現先や発行レート低下が影響し按分・足切りレート共に低下した。18・28日のオペでは、発行レートは低下基調ではあったが、発行増と現先レートの上昇により、応札ニーズ強まり、足切り・平均落札レートは共に強含みとなった。

[10月末のオペ残高・・・1兆8,921億円]

*31日に、11月・12月のオペオファー日程が発表され、11月のオペについては各回4500億円と、各々500億円増額されることとなった。

日銀 CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
10月3日	10月8日	4,000	8,256	3,985	0.077%	0.080%	62.0%
10月18日	10月23日	4,000	9,450	3,985	0.086%	0.090%	28.6%
10月28日	10月31日	4,000	6,955	3,589	0.088%	0.092%	69.8%

《ABC P》

ABC Pの月末残は、1兆5491億円（前月比▲億円）に止まり、先月に引き続き過去最低水準となった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、発行登録企業数はサントリー食品インターナショナルが新規登録を行ない、492社となった。10月末時点における通算の発行企業数は、東急不動産ホールディングスが新規発行を行ったことから、528社となり、それぞれ1社増となった。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、10月上旬は落ち着いて推移(0.08%台後半)していたが、

中旬以降レポレートの上昇の影響を受け、強含み地合い（0.090%～0.100%近辺）となった。

◆ 11月のCP市場動向

11月中のCP償還額は約2兆7400億円で、前年同月の償還額（約2兆7900億円）とほぼ同程度の額となっている（除く、金融機関発行CP・ABC P）。

今月は、賞与手当に対応の発行が活発に行なわれると思われる。大手シンクタンクの冬ボーナス予測では、5年ぶりの増加となることが見込まれている。月末発行残高は、14兆円台後半～15兆円前後を予想する。

発行レートは、発行増となっても引き続き運用ニーズが強いことから、弱含み地合い継続となるだろう。

一般銘柄の3M物では、0.080%前後～0.09%台前半の出会い。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）の3M物は、0.09%台前半～0.100%近辺での出会いをそれぞれ予想する。

《CPオペ》

今月は、7日（実施済）・18日・26日と計3回の入札が何れもオファー額4500億円（各回500億円増額）にて実施される予定。

7日実施済分のオペについては、オファー金額が増額になったことや、応札可能な銘柄が限定されていたこともあって、前回オペから低下することを予想する向きが多かった。結果は、按分・平均レート共に過去最低水準を更新し、按分レートは0.042%まで流れた。

次回以降のオペレートを予想することは難しい。市場では月央から発行増加が予想されており、ディーラーのポジションも相応に増加し、オペによる売却ニーズは強まるだろう。但し、7日のオペと同様に応札可能銘柄が限定された場合には、ボラタイルな動きになることもありえよう。

月末オペ残高は、2兆円台前半を予想する。

《CP現先市場》

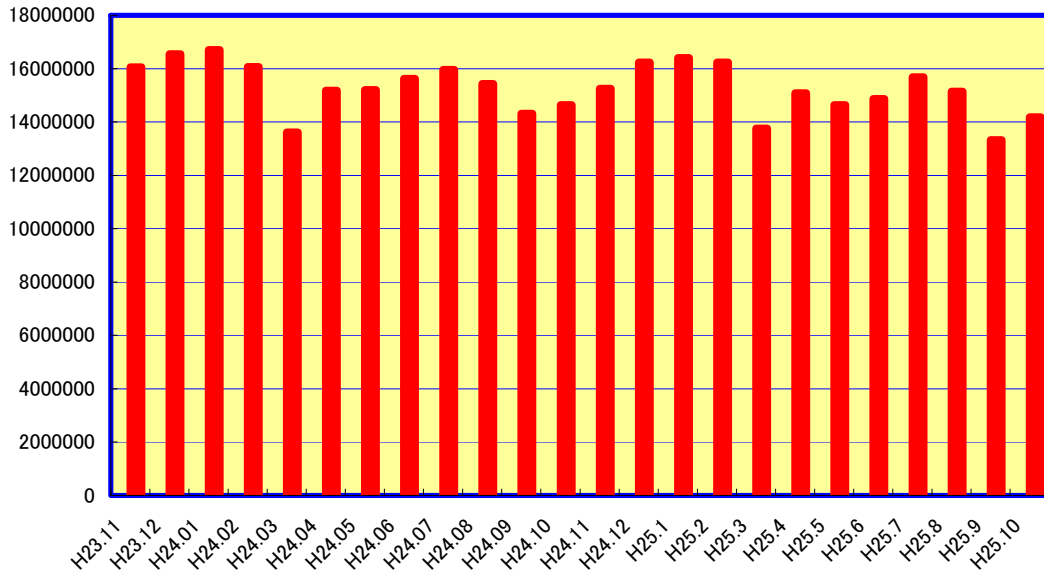
S/N物のレポレートは、先月同様0.050%台～0.090%台のワイドレンジが予想される。インターバンクレートは、変化が少なく0.065%～0.075%近辺での推移を予想する。CP現先レートは、新規発行増とレポレートの影響を受け、上旬は落ち着いて推移し0.07%台～0.08%台半ば。中旬以降は、0.08%台～0.090%台での出会いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高（23年11月～25年10月）

発行登録企業：492社（発行実績あり528社）

（過去2年間の残高を表示）



10月末発行残高ベスト20

10月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	10月末残高	9月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	756,300	751,600
2	三菱UFJリース	747,400	762,600
3	東京センチュリーリース	613,900	606,200
4	三井住友信託銀行	533,700	562,000
5	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
6	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	492,320	392,200
7	三菱UFJモルガンスタンレー証券	484,000	506,500
8	JXホールディングス	455,000	444,000
9	みずほ証券	335,400	312,400
10	JA三井リース	331,000	323,000
11	興銀リース	320,300	323,000
12	アルカディア・ファンディング	277,610	293,590
13	東芝	266,000	126,000
14	芙蓉総合リース	239,700	239,700
15	新日鐵住金	235,000	0
16	エイペックス・ファンディング	230,390	204,530
17	大和証券	225,680	268,480
18	日本証券金融	211,000	287,000
19	野村証券	199,000	232,500
20	ジェイエフイーホールディングス	191,000	13,000

参考出所 (株)証券保管振替機構